



皆を支え、守る税

大田区立馬込中学校 二年 福島 景子

最近、母が家計を見直した。私も将来役立つと思い、一緒に固定費を見直した。未知の単語がある度、母に尋ねては説明を聞いた。保険を見直している際、私は家計簿に書かれている国民健康保険料に興味を持ち尋ねた。だが母は説明できなかった。支払っていても何に使われているのかを知らなかったからだ。

疑問に思った私と母は国民健康保険料について調べた。そもそも国民健康保険料とは国民健康保険税といい、一種の税金なのだ。日本では病院に行った際、窓口で医療費の三割しか払わなくて良い。残りの七割にはこの税金も使われている。さらに、この大田区では中学生の私の場合、子どもの医療費助成制度で残りの三割も区が補助してくれるのだ。つまり負担なしで医療を受けることができる。

実際に父が病院にかかった際の領収書を確認すると、風邪症候群では六三〇〇円のうち四五〇〇円、インフルエンザでは二二〇〇〇円のうち八二〇〇円が税金等による医療制度で負担されていた。体調が悪いときは気にせず病院にかかっていた私だったが、補助がなかった場合、一回でこんなにもお金がかかるのだと驚いた。国民健康保険税は意外にも身近なところで役立っているのだと実感した。

だが母には大きな不安があった。それは大患にかかった際大丈夫なのかだ。必要な金額がわからないため民間保険に入っても不安だった。ただ、厚生労働省のサイトを見ると、高額療養費制度があることがわかった。医療費高額の際、これを使えば上限が決まり負担額を税金等により抑えることができる。

これらを知った母はいくら必要かわからない医療費に怯えることなく、支払う上限額がわかり気持ちが楽になっていた。莫大な医療費を支払うこともない。私が将来病気になったとしてもこれらの制度を知っていれば、高額な医療費に怯えず安心して過ごしていけるのだ。こんなにも素晴らしい制度を大人になる前に知ることができて心の底から安心した。

日本は他にも税金を活用し国民の生活を助ける制度が多く用意されている。今のうちから私は国の政策について理解を深め、用意されている制度をたくさん知っておこうと思う。

税金は大人が納める大変なものや他人事のように感じていた。だが、国民健康保険税を通し、税金は私たち国民全員が安心、安全に暮らすために必要不可欠なものであることに気づくことができた。また、私たちの当たり前は税金によって支えられていることも知ることができた。この恵まれた当たり前が未来でも全員の前であり続けるように、国民全員が税についてきちんと知ってほしいと思う。

私は今、直接税金を納めることはできない。だが、将来税金を納める立場になったら使途や詳細を知った上でしっかりと税金を納めていきたい。そのために税金への知識と理解を深め、私が支払うことのできる税を確実に支払い、税金への関心を持った大人になりたい。